

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
23L205 19L205	都市と交通Ⅱ	2年	秋	講義	2	古池弘隆
授業概要 昨年開業した日本で最初の LRT は宇都宮のまちづくりに大きな変化をもたらしています。世界的には自動運転や EV などの自動車技術の進歩や交通需要管理、LRTやBRTなどの公共交通の推進、自転車交通の推進などさまざまな変化が起こっています。また、交通は都市構造のあり方に深く関係していることから、コンパクトシティや TOD についても学習します。さらに 20 世紀の自動車依存社会から 21 人間中心の都市へと大きなパラダイムシフトが進行しています。海外の最新事例も含めて最新の考え方を紹介し、人口減少・少子高齢化時代における持続可能な交通まちづくりについてビデオなどを用いて詳しく紹介します。						
到達目標(学習の成果) ・都市における交通問題の解決策には、公共交通、自動車、自転車など多様な方法があることを学ぶことができます。(DP3) ・都市と交通に関する問題解決手法として、代替案の列举と評価の手法を身につけることができます。(DP3)						
授業計画						
回	学修内容	授業外における学修方法				
1	EV や自動運転、ライドシェアなど次世代の自動車のあり方	事前	シラバスに目を通しておくこと (2時間)			
		事後	CASE といわれる新しい動きについて復習する (2時間)			
2	交通渋滞の緩和をめざして、道路交通容量の増大など	事前	より多くのクルマを通すにはどうすればよいかを考えてみる (2時間)			
		事後	様々な交通容量増大策について整理する (2時間)			
3	交通需要管理(TDM)の 5 つの分野における事例	事前	クルマの賢い使い方について考える (2時間)			
		事後	5 つの TDM について復習する (2時間)			
4	さまざまな公共交通機関の分類と特徴について	事前	公共交通にはどんなものがあるかを考える (2時間)			
		事後	公共交通の種類や特徴を整理する (2時間)			
5	BRTやコミュニティ・バスなど新しい方式によるバスの活性化	事前	宇都宮市内のバスについて課題を考える (2時間)			
		事後	バスの活性化について学んだことを整理する (2時間)			
6	世界と日本の LRT (Light Rail Transit) の歴史と現状、課題	事前	参考書やネットで世界の公共交通について学ぶ (2時間)			
		事後	授業で学んだ世界と日本の LRT について整理する (2時間)			
7	日本で最初に新設された宇都宮 LRT の経緯と課題	事前	宇都宮の LRT に乗ってみる (2時間)			
		事後	宇都宮 LRT の開業までの歴史と今後の課題を復習する (2時間)			
8	宇都宮市が進めているネットワーク型コンパクトシティ(NCC)について	事前	宇都宮市の HP で NCC について調べる (2時間)			
		事後	NCC の意義や必要性について整理する (2時間)			
9	公共交通指向型開発(TOD)の海外事例や国内の動向	事前	宇都宮駅東口交流拠点施設を見学する(2時間)			
		事後	宇都宮の LRT と TOD の関連性について整理する (2時間)			
10	先進国で起こっている脱自動車の動きについて	事前	パリの 15 分都市の計画についてネットで検索してみる (2時間)			
		事後	世界における新しい都市と交通の関係を復習する (2時間)			
11	身近な交通手段としての自転車交通の現状と課題	事前	自分が自転車に乗るときにどんな問題があるかを考える (2時間)			
		事後	自転車に関するハード、ソフトの課題を整理する (2時間)			
12	世界中で急増しているシェアサイクルや電動キックボード	事前	シェアサイクルかキックボードに乗ってみる (2時間)			
		事後	シェアサイクルの推移、現状、課題を整理する (2時間)			
13	宇都宮の自転車のまち推進計画	事前	市の HP で自転車の施策について調べる (2時間)			
		事後	宇都宮の自転車計画を整理する (2時間)			
14	健康とまちづくりを目指す歩きたくなるまちなかづくり	事前	オリオン通りなどまちなかを歩いて課題を探索する (2時間)			
		事後	高齢化時代の健康まちづくりの重要性を認識する (2時間)			
15	人中心のまちづくりに向けたこれからの都市と交通のあり方	事前	これまでの授業を振り返りこれからの施策を考える (2時間)			
		事後	クルマから人へのパラダイムシフトについて復習する (2時間)			
授業形式(アクティブラーニングの内容) 特になし						

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末の定期試験(70%), 授業への取り組み(30%)に基づいて評価します。

観点	S	A	B	C
都市における様々な交通手段に対する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
都市と交通のあり方に関する考え方	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

教科書は使用しません。

参考書等

森田哲夫・湯沢昭 図説わかる交通計画 学芸出版社 2020年

森田哲夫・森本章倫 図説わかる都市計画 学芸出版社 2021年

交通や都市に関する行政資料などのコピーを必要に応じて配布します。

履修上の注意・学修支援

出席状況・受講態度を重視します。 出欠は毎回授業開始後 30 分の時点でエクセル表示により確認します。

全 15 回の講義の 3 分の 2 以上の出席がなければ期末試験を受験することはできません。

また、授業内容に関する質問を歓迎し、積極的に学生の意見や考え方についての発言を促します。